

プラズマ誘起生体反応の 機構解明研究のフロンティア

日時：2020年9月10日(木) 13:30～17:50(予定)

- ・セッション：T9
- ・オンライン開催
- ・現地開催地：同志社大学 今出川校地（京都市）

放電プラズマのバイオ医療分野への応用は、国内では2000年後半から本格的に開始され、がん治療、止血、遺伝子導入など医療応用に向けた学理構築が進められている。

本シンポジウムでは将来の安全性も見据えつつ、プラズマ誘起活性種・前駆体の議論とともに、細胞・生体内の作用機序解明の研究について議論する。

招待講演

「大気圧非平衡プラズマを用いた糖鎖機能理解の深化とその利用」

池原譲（千葉大学）

「プラズマ照射による新規レドックスシグナル形成と心筋恒常性制御」

田中智弘（自然科学研究機構）

「様々なプラズマ活性溶液による細胞死の作用機序」

田中宏昌（名古屋大学）

「低温大気圧プラズマを用いた膀胱癌に対する抗腫瘍効果の検討」

福原秀雄（高知大学）

「プラズマ誘起液中化学反応場における生体高分子の化学修飾」

北野勝久（大阪大学）

「プラズマ複合刺激によるゲノムインテグレーションフリーで自発的な細胞の外部分子/遺伝子取り込み」

神野雅文（愛媛大学）

「ポストハーベストでのパルスパワー利用とその作用機序」

高木浩一（岩手大学）